



# 福島原発事故から10年

私たちは忘れない!!

伊方原発はとめたまま廃炉に!!



## 原発と人類は共存できない!!

東京電力福島第1原発事故から10年。今なお多くの方がふるさとの戻れず、困難な境遇が続いています。事故の収束も見通せないまま、国と東京電力は、賠償責任や住宅支援などさまざまな支援を打ち切るなど、事故を起こした加害責任を果たしていません。増え続けている汚染水の海洋放出も狙われています。除染で出た放射能を浴びた汚染土の処分も見通しが立っていません。レベル7の深刻な原発事故の教訓は、事故によって放射性物質が一旦外部に放出されると、これを押さえることができないこと、**原発と人類は共存できないことを示しました。**

## 伊方原発は安全ではありません!!

広島高等裁判所は、昨年1月17日、伊方原発3号機の安全性について、  
① 原発敷地直近にある中央構造線断層帯は活断層である可能性が否定できない、四国電力の調査も不十分。② 阿蘇山噴火時の火山灰の降灰量などの想定は過小。③ 原子力規制委員会が伊方原発を新規制基準に適合するとした判断は不合理で、生命身体に対する具体的危険の存在がある。として運転を差し止める決定を出しました。

また昨年、四国電力は定期点検中に「制御棒を誤って引き抜く」、「核燃料をプールのラックに乗り上げる」、「外部電源の43分間の停止」という重大なトラブル事故を相次いで起こしました。どの事故も一歩間違えば過酷事故になるおそれのあるものであり、四国電力に原発を動かす資格はありません。

## 伊方が「核のゴミ」の最終処分場?

原発の「負の遺産」と言われる使い道のないプルトニウムの大量保有、垂れ流しの高レベル放射性廃棄物、たまり続ける使用済み核燃料など、「トイレなきマンション」の実態が深刻になってきています。

四国電力は、使用済み燃料プールが満杯に近づいているためとして、伊方原発の敷地内に新たな施設、使用済み核燃料を保管する乾式貯蔵施設の建設をすすめています。青森県六ヶ所村に建設中の再処理工場に持ち出すまでの一時的な保管場所と言っています。しかし日本のプルトニウム保有量は45トンと高止まりしており、再処理工場の運転開始時期の見通しは立っていません。いったん乾式貯蔵が始まると、伊方が「核のゴミ」の最終処分場となってしまう可能性があります。私たちは、これ以上の使用済み核燃料を作らないためにも、伊方原発3号機の廃炉と再生可能エネルギーへの転換を求めます。

**未来へ負の遺産を残さないために!**

## 3・11は「原発ゼロを願う日」

3・11から10年が経過して、事故が風化していくこと、原発事故や原発への関心が薄れつつあることが気がかりです。東京電力福島第1原発事故は終わっていません。「原子力緊急事態宣言」は発令されたままです。私たちは改めて訴えます。

**福島をくり返さない! 伊方原発いらない!**

**〈3・11〉を〈原発ゼロを願う日〉と心に刻み、何よりも命を大切に歩んでいきます。**



伊方原発をとめる会 〒791-8015 松山市中央2丁目23-1、201号

TEL 089-948-9990 FAX 089-948-9991

HP = <http://www.ikata-tomeru.jp> メール [ikata-tomeru@nifty.com](mailto:ikata-tomeru@nifty.com)

《原発問題に関心のある方はご連絡ください。資料をお送りします。》